

漆塗りの壺

「まいコレ」では、収蔵庫に眠るイチ押し^{イチ}の出土品を、月替わりでご紹介。今月は、土器を素材とした美しい文様の漆製品です。

■ 出土地：円覚寺跡（那覇市）

この漆塗りの壺^{つぼ}は、口縁部から胴部上半分は欠損していませんが、底部はほぼ完全に残っています。素地は土で、にぶい^{だいだいろ}橙色を呈する軟質の土器です。攪乱層^{かくらんそう}から見つかったため、製作された年代などの詳細は不明です。

器形は縦長の壺になるとみられ、胴部は丸みを持ち、底部は上げ底になっています。外面は、牡丹と思われる植物や唐草^{くさ}、格子状の文様が陽刻^{ようこく}で表現されるほか、文様の隙間も細かく魚^な々子^な状に彫られるなど、非常に緻密です。

漆は黒と赤の2色が用いられ、文様の浮き出た部分に塗られた赤色の漆が、より華やかさを増しています。これまでに出土した漆製品の多くは木製でしたが、土器を素材とした漆製品の出土事例はほとんどなく、記録や伝世品にもみられません。

また、外面の一部に文字が彫られていますが、その意味は判っていません。

